

市庁舎のあり方について 提言書を提出

「遠野スタイルによる庁舎機能のあり方を語る市民懇話会」(河野好宣座長)は5月27日、今後の庁舎のあり方を示した提言書を市に提出しました。その概要をお知らせします。



本田市長(右)へ提言書を手渡す河野座長と懇話会のメンバー

提言書要旨

その1…庁舎の位置

まちづくり、利便性、実現性などの観点から、中心市街地に設置することが望ましい。

その2…庁舎の機能

市民の利便性の向上と効率的な庁舎管理をする観点から、庁舎機能は集約することが望ましい。現在のスタイルが評価されている庁舎と、課題が指摘されている庁舎とを検討し、進化した庁舎機能の確保に努めてほしい。

東日本大震災で本庁中央館が被災し、各種窓口などがとびあ庁舎へ、市議会議場が宮守総合支所に移転するなど庁舎が分散化。これを受け市は、市役所庁舎の今後の方向性を探るため平成24年5月、「遠野スタイルによる庁舎機能のあり方を語る市民懇話会」を設置し、これまで7回の会議を開催してきました。5月27日には今後の庁舎のあり方について検討した結果(詳細左枠)を市に提出しました。

同会委員は市内各団体の代表者や公募などの市民50人で構成。▷地域づくり団体部会▷産業振興団体部会▷保健福祉教育団体部会—の3つに分かれ、現状の把握や調査を繰り返し、それぞれの部会で意見を交換・集約しました。河野座長は「市民の皆さまの利便性を中心に討論した結果です。より良いサービスの向上につながる庁舎になることを願います」と話し、本田市長に提言書を手渡しました。



遠野中女子生徒による創作ダンス

統合後初めての体育祭が5月11・18の両日、市内三中学校で開催されました。各校ではそれぞれの旧中学校の伝統を取り入れた種目やダンスなどに取り組み、保護者らは温かい声援を送っていました。遠野中では旧三中学校の体育祭の種目を取り入れて実施。旧附馬牛中が取り組んでいた創作ダンスを全校の女子生徒が披露しました。このほか男子生徒による「棒倒し」では、生徒の白熱した戦いに、盛んな声援が送られています。遠野東中では新しい種目「東中ソーラン」を披露。全校生徒は統率のとれた動きで、



遠野西中全校生徒によるエール

保護者や住民に、新しい歴史を作っていく姿勢を示しました。遠野西中の体育祭では、旧宮守中と旧小友中で歌われていた応援歌でそれぞれエールを交換。熱気を帯びたエールで士気を高め、その後の競技に弾みをつけました。



遠野東中の「東中ソーラン」。全校生徒は心を一つに披露した

市内中学がそれぞれ一致団結 統合後初めての体育祭開催



「食暦」を手に、さらなる発展を誓う同会関係者ら

綾織町の農家女性で組織する「あやおり夢を咲かせる女性の会(菊池ナヨ会長)は、団体発足20周年を記念し「あやおり食暦」食卓の主役『米』と共に生きる知恵を」を発売しました。5月8日には記念式典を開催し、関係者はさらなる郷土の発展を誓いました。同会は地域に受け継がれてきた食文化を後世に伝えようと記念誌製作を企画。「食

暦」はこれまで先人の知恵を学ぶために開催してきた「田舎暮らし講座」の内容をまとめ、季節ごとの郷土料理のほめ、農作業や地域行事などを写真やイラストで紹介。製作には郷土学習に取り組んでいた旧綾織中生徒も参加しました。なお、紹介されている料理は御食事処「結和」で提供しています。食暦は市立図書館などで閲覧できます。

綾織の郷土食や行事を後世へ 記念誌「あやおり食暦」発刊

市立博物館は5月18日、入館者200万人を達成し、記念セレモニーを行いました。200万人目の来館者は福岡県北九州市から姉と訪れた野中真一郎さん。野中さんは「数年前に『遠野物語』を読み、ずっと遠野に来たいと思っていました。念願がなかっただけでなく、節目の来館者になるとは夢のようです」と初めての遠野に感激していました。

セレモニーではくす玉を割り、野中さんと200万人の前後一人ずつに記念品を贈呈。本田市長は「遠野に思いを寄せいただき、大変ありがたかったです」と感謝を述べました。同館は1980年(昭和55年)にオープン以来、1991年(平成3年)に100万人を達成。2010年には遠野物語発刊100周年を期にリニューアルオープンし今回の入館者200万人を達成しました。



200万人達成を祝う関係者ら。左から3人目が野中さん

「とおの物語の館」がオープン まちなかの観光拠点目指す



くす玉を割る関係者ら。空に風船を放ち、館の発展を祈った

「とおの物語の館」はリニューアルされた旧昔話村や柳田國男展示館に加え、食事処「伊藤家」、土産処「赤羽根蔵」などの周辺施設一体の総称で、総敷地面積は4866.84平方メートル、総工事費は3億241万円。同館では遠野に伝わる昔話を映像や音声などで楽しめるほか、柳田の作品や功績を学んだり、昔話や郷土芸能を観賞したりすることが出来ます。

「とおの物語の館」のリニューアルオープンは4月27日、同所で開催され、地域住民や関係者らはくす玉割りや神楽、スクールバンド演奏などで新たな観光拠点の門出を祝いました。セレモニーで本田市長は「遠野の歴史を発信し続けた旧昔話村の再出発の日。これからも地域の魅力と文化を発信するとともに、人と地域の絆を深める施設としたい」と願いを込めてあいさつ。『遠野物語』の著者、柳田國男の長男の妻、柳田富美子さんは「何度来ても楽しめる施設。遠野の発展の拠点になることを願います」と待望の観光拠点を祝いました。

「とおの物語の館」はリニューアルされた旧昔話村や柳田國男展示館に加え、食事処「伊藤家」、土産処「赤羽根蔵」などの周辺施設一体の総称で、総敷地面積は4866.84平方メートル、総工事費は3億241万円。同館では遠野に伝わる昔話を映像や音声などで楽しめるほか、柳田の作品や功績を学んだり、昔話や郷土芸能を観賞したりすることが出来ます。



影絵や映像、音声などを使ったアトラクションで昔話を体感できる